

再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担当課:道路局 国道・技術課

担当課長名:西川 昌宏

事業名	一般国道29号 姫路北バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自:兵庫県姫路市相野 至:兵庫県姫路市林田町六九谷	延長	6.2km		
事業概要					
国道29号は、兵庫県姫路市と鳥取県鳥取市を結ぶ約118kmの主要幹線道路であり、播磨地域の南北方向の交通を担う道路です。姫路北バイパスは、姫路市域の国道29号の交通混雑の緩和、交通安全の確保、沿道環境の改善等を目的とした延長約6.2kmのバイパスです。					
H2年度事業化	H2年度都市計画決定	H9年度用地着手	H15年度工事着手		
全体事業費	約281億円	事業進捗率 (令和7年3月末時点)	約57%	供用済延長	1.5km
計画交通量					
21,800台／日					
費用対効果分析	B/C (事業全体) 1.2 参考 1.9 [2%] 2.4 [1%]	EIRR (事業全体) 4.5% (残事業) 2.7 参考 3.8 [2%] 4.5 [1%]	総費用 (残事業)/(事業全体) 126/468億円 (事業費: 94/428億円) 維持管理費: 31/40億円 更新費: 0/0億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 337/558億円 (走行時間短縮便益: 313/524億円) 走行経費減少便益: 16/24億円 交通事故減少便益: 8/10億円	基準年 令和7年
感度分析					
(事業全体) 交通量 B/C=1.1~1.3(±10%) 事業費 B/C=1.2~1.2(±10%) 事業期間 B/C=1.1~1.2(±20%)					
(残事業) 交通量 B/C=2.4~2.9(±10%) 事業費 B/C=2.5~2.9(±10%) 事業期間 B/C=2.6~2.7(±20%)					
事業の効果等					
①交通混雑の緩和 ・未開通区間の交通量は交通容量の約1.5倍となっており、ピーク時間帯には交差点部などでは渋滞が発生している。 ・姫路北バイパスの整備により、交通が転換し交通混雑の緩和による旅行速度の向上や所要時間の短縮が期待される。					
②交通安全の確保 ・未開通区間の国道29号では、兵庫県内の直轄国道と比較し渋滞に起因すると想定される追突事故の割合が高い。 ・姫路北バイパスの開通済区間では、死傷事故件数が減少。姫路北バイパスの整備後は、交通混雑の緩和により交通事故の減少が期待される。					
③沿道環境の改善 ・未開通区間の国道29号(下伊勢交差点、下伊勢ランプ交差点)では、家屋が近接し沿道騒音が環境基準を超過している。 ・姫路北バイパスの開通済区間では、現道の交通がバイパスに転換し、沿道周辺の騒音レベルが低下。 姫路北バイパスの整備による交通の転換により、沿道騒音の改善が期待される。					
関係する地方公共団体等の意見					
兵庫県知事の意見: 姫路北バイパスは、姫路西バイパスや山陽自動車道姫路西に直結し、播磨地域の広域的な交流・連携に資する重要な道路である。					
本事業6.2kmのうち、これまで南側約1.5kmは平成23年3月に暫定2車線で供用されたものの、残る4.7km区間の現道部分では、ピーク時間帯における交差点部での渋滞発生や沿道騒音の環境基準超過などの課題が残っている。引き続き、安全で円滑な交通確保と環境改善を図るため、開通の見通しを示しつつ早期の全線供用に向けて積極的に取り組んで頂きたい。					
なお、事業の実施にあたっては、資材価格や人件費が高騰している状況であるので、より一層のコスト縮減に努めて頂きたい。					

姫路市長からの意見：

(期待する効果)

① 観光

・姫路市と宍粟市、また本市と姉妹都市である鳥取市をはじめとする国道29号沿線市町とのアクセス向上に伴う周遊観光の実現による広域観光の振興

・兵庫県指定重要有形文化財である三木家住宅やはやしだ交流センター「ゆたりん」や鹿ヶ壺、奥播磨かかしの里をはじめ、国道29号の沿線市町の温泉やスキー場等の観光施設へのアクセス向上による観光客数の増加

② 産業振興

・工場立地・設備投資の拡大による、新たな雇用の創出や地域の稼ぐ力の強化

③ 医療

・第三次救急医療施設である県立はりま姫路総合医療センターへのアクセス向上による、搬送時間の短縮

④ 災害に強い道路ネットワーク

・バイパス整備によりダブルネットワークが形成されることで、災害発生等により現道が通行止めとなった場合の交通機能の確保

(市の取組)

① 観光

・「国道29号周辺兵庫・鳥取地域振興協議会」をはじめ、播磨圏域連携中枢都市圏構成市町や西播磨5市6町(西播磨観光協議会)での広域的な観光促進事業の実施

② 産業振興

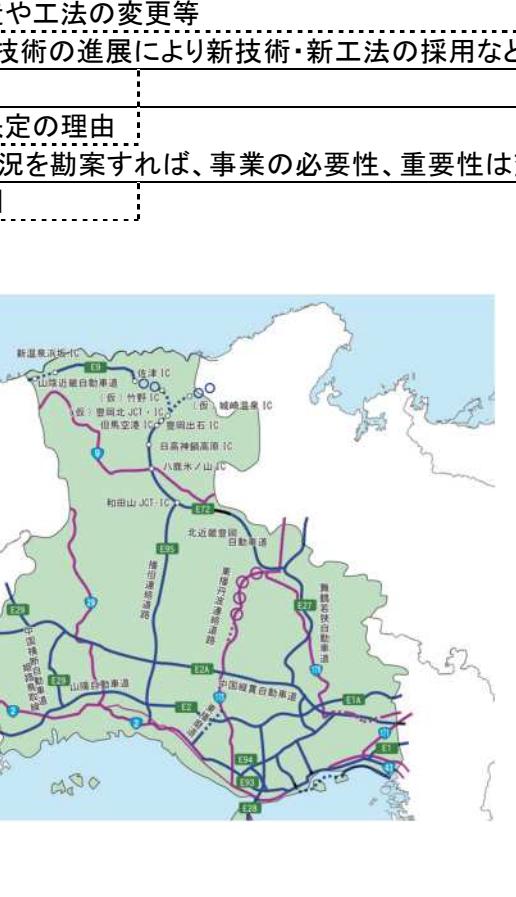
・工場用地ライブラリー(国道29号沿線の物件情報も登録)を活用したマッチング制度や各優遇制度、ワンストップサービスなど進出企業のサポート

・製造業のほか、地域特性を活かした6次産業化企業などの企業誘致活動

事業評価監視委員会の意見

審議の結果「一般国道29号姫路北バイパス」は、事業の必要性等に関する視点、事業の進捗の見込みの視点から継続が妥当と判断できる。

引き続き事業を推進し、早期の開通を目指すことが適切である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 沿線地域の人口は減少傾向にあるが、世帯数、自動車保有台数は事業化後増加し近年は横ばい傾向である。	
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成2年度事業化、用地取得進捗率約67%、事業進捗率約57%(令和7年3月末時点) 平成23年3月：延長1.5km部分開通	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 引き続き事業を推進し、早期の開通を目指します。	
施設の構造や工法の変更等 今後も、技術の進展により新技術・新工法の採用など、コスト縮減に努めながら事業を推進していきます。	
対応方針 対応方針決定の理由 以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。	
事業概要図 【位置図】 	【概略図】 

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(〔 〕内は社会的割引率の値)